

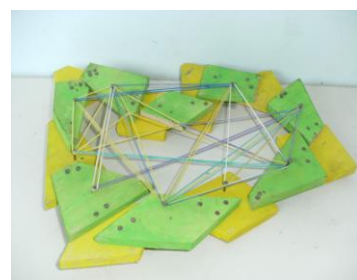
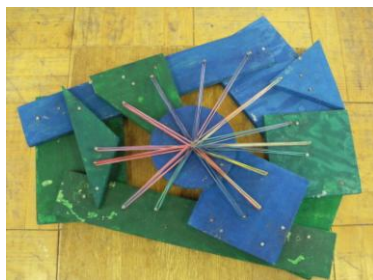
第3学年 図画工作科授業実践事例

1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

bーふくらむ思い

感じたことや想像したことなどを形や色で思いのままに表す活動を楽しみ、より心地よいもの、美しいものへと新たな思いをふくらませながら表すことを大切にしていく。

2. 題材名 「トントンつなげて まるまるアート」（立体に表す）—6時間扱い—



3. 活動の指針と題材のかかわり

昨年から担任しているこの学年の子どもたちは、明るく元気にあふれ、学習にも意欲的に取り組むことができている。図工については楽しいと感じている子も多く、特に絵をかくこと、絵の具を使うことが大好きである。2年生はじめの絵の具との出あいは刺激的だったように思う。水の加減で変化する色や混色など、絵の具の使い方を知ると目を輝かせて筆をはしらせていた。うまくかこうというよりも、まずは色を楽しみながら絵の具を使っていたようだ。かきたいものをすぐにかき始める子はもちろん、じっくりと考えて取り組みが遅い子、友だちの絵を参考にしながら新しいものをかこうとする子も、絵の具を使う時はそれぞれに、どんな色にしようかと思いをふくらませながら楽しんで取り組んでいた。

3年生では、新しく木切れ・くぎ・金づちに出あうことになる。そこで、2年生で絵の具と出あった時のように、3年生でも新しい用具に楽しく出あい、興味を持って思いをふくらませながら活動に取り組んでほしいと考えて本題材を設定した。

この題材は、くぎと金づちをつかっていろいろな大きさや形の木切れを組み合わせて作品にしていく活動である。好きな形の木切れを選び、どんどんつなげては崩してを繰り返して、つくりあげたい形を見つけていく。形が見つかったら、色をぬり、つくりあげたい形にくぎと金づちでつなぎ合わせていく。つなぎ合わせた後、色ゴムをはるためのくぎを打ち、色ゴムがはり終われば「まるまるアート」が完成する。

くぎと金づちと楽しく出あうために、この学習ではくぎを打つ活動を十分取り入れられるように考えた。導入では木材にどンドンくぎを打ち込んでいく活動を行う。つぎに、いろいろな大きさや形の木切れをつなげるためにくぎを打っていき活動になり、「まるまるアート」の形を考えながら打つ楽しさを味わうことができる。そして最後に色ゴムをはるためのくぎを打ち込んでいく。くぎを打つ用途を変えることで、くぎを打つ時間を十分に確保し、くぎを打つ楽しさが途切れることなく活動できるのではないかと考えた。

色をぬってゴムをはる活動は、子どもたちが心をときめかせる作品に仕上げるために行う。子どもたちは絵の具が大好きだが木に絵の具で色をぬったことはなく、初めての体験にドキドキしながら楽しんで活動するだろうと考えた。さらに、どの色をぬろうかと考えながら自分にぴったりあった色に仕上げていく喜びも作品が完成していく楽しみにつながっていくと考えた。また、仕上げに色ゴムをはることはあらかじめ伝えているため、子どもたちは色ゴムを意識しながら形を見つけたり、色をぬったりしていく。最後

の色ゴムをはる活動は、繰り返し何度もはったりはずしたりしながら、ゴムの色や重なり合いからうまれる美しさや楽しさを見つけることができる。その美しさや楽しさが自分の「まるまるアート」にさらに違った魅力を加えていくものになるのではないかと考える。

題材名の『トントンつなげて』は、くぎと金づちで木切れをつなげていくことを思い描きながら、くぎが打ちやすい形になるように「つなげて」という言葉を使った。『まるまるアート』は、つなげていく形のはじとはじがどこかでつながる形＝丸（まる）の形にイメージできるように、またどんな形になっても自分のお気に入りのこちよい作品であればそのまま作品＝まるまるアートになるという意味で題材名をつけた。はじめてくぎと金づちを使った作品「まるまるアート」が、つくり上げた満足度をも「まるまる」にする活動になるように進めていきたいと考えている。

〔共通事項〕

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえさせること。
- イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

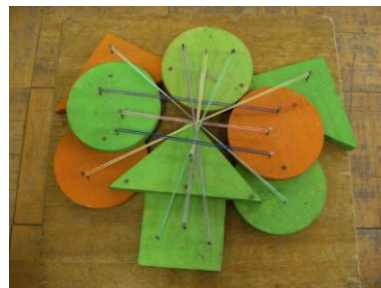
4. テーマにせまるための具体的な手立て

(1) 視点1「思いをふくらませる」

- くぎと金づちとの新しい出会いを大切にするために、導入でくぎを打つことを十分体験できる活動の時間を確保する。うまく打てるようになった喜びの中で、くぎを使って作品をつくってみたいという思いにつながられるようにする。
- たくさんの木切れをつなげては崩していくことをたっぷりくり返して、自分が気に入ったおもしろい形を見つけられるようにする。
- 参考作品を用意し、木切れのつなぎ方・形・色の感じについておさえ、つくりたいものをイメージしやすくする。
- くぎとくぎをつなげるものとして8色のゴムを用意した。このゴムの色をきわだたせるために、木に塗る色を2色に限定した。

(2) 視点2「思いをかたちにする」

- くぎをしっかりと打ちつけられるように、安定した場所の探し方を伝え、安定させるための補助材を用意するなど、安全な使い方について指導する。
- くぎが曲がったり出っばったりしても失敗と考えずに、そのくぎも作品の一部として使っていけるように助言していく。
- 木に絵の具で色をぬる時の水加減や筆の大きさなどを伝え、紙に色をぬる時との違いに気づかせ、ぬり方を知る。
- 色ゴムを張る時は、くぎを1つ打ったらゴムを張ってみるようにし、いろいろな形を試してどんどん素敵な形を探していくように伝える。



5. 題材のねらい

○木の形や大きさを見ながらつくりたい形をイメージし、イメージした形になるようにくぎと金づちを工夫して使いながら楽しんで作品をつくることができる。

6. 題材の評価規準（重観点…◎）

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○くぎや金づちの用具や木に親しみ、楽しく作品をつくらうとしている。	◎木の形や大きさを見ながらつくりたい形をイメージする。 ○できた形に色をつけたり、ゴムをはったりすることでおもしろい・美しい・素敵な形を見つけることができる。	◎つくりたい形に合わせてくぎや金づち・木の大きさや形を工夫して使っている。 ○できた形に色の感じや組み合わせを考えながら色をぬっている。	○自分や友だちの作品のよいところや形やバランスのおもしろさを味わうことができる。

7. 準備 《児童》 絵の具 マジック

《教師》 木切れ 金づち くぎ くぎ抜き きり 接着剤 やすり 洗濯ばさみ
絵の具 輪ゴム デジカメなど

8. 指導と評価計画

時間	○ 活動内容 ☆★ 予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】・・・評価方法
一次 60分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">木切れとくぎと金づちと出あおう</p> <p>○木を使った作品づくりや、木にふれた時のことを思い出す。 ☆自分の経験したことを話す。 ・「幼稚園でつみ木をやったことがある」 ・「親子工作で本棚をつくった」 ★木工やつみ木の経験がなく想像できない。</p> <p>○たくさんの木切れを目の前にして、木切れをかたまりにする方法を考える。 ☆これまでの道具を思い出して発言する。 ・「ボンドやガムテープでつけられる」 ・「くぎでやったことがある」 ○くぎと金づちを使った作品をつくることを知る。</p>	<p>◆ブルーシートを広げて周りに座らせて、これから何が始まるか興味をひく。</p> <p>◆子どもたちのこれまでの経験を引き出し、木は身近なところにあるということに気づけるようにする。</p> <p>◆ブルーシートの上にたくさんの木切れを用意し、どんな形のものがあるか紹介していく。</p>



○くぎと金づちについて知り、使い方を覚える。

○くぎや金づちの持ち方を知ってどんどん試し打ちをしていく。

☆楽しんでどんどん打ち込んでいく。

☆補助道具を使いながら、ためし打ちしている。

★くぎが曲がってしまう。



◆くぎを使うことがわかった後、題材名を出し、これからの活動に期待を持たせながらくぎを使った作品をつくることを知る。

◆くぎも金づちもたくさん見せて、わくわく感と安心感を与える。

◆思いのままにくぎ打ちを楽しみ練習できるように、自由に打ち込める角材を用意する。

◆くぎ・金づちの持ち方、他の補助道具(洗濯ばさみ・きり)を使って打つ方法なども知らせ、自分でできる活動の範囲を広げられるようにする。

◆くぎぬきを用意し、必要な時は抜いていく。

◆安全に十分配慮していく。

◆長めのくぎから長さを短くしたものを出していく。

【関】…活動の様子・つぶやき・発言

【発】…つぶやき

トントンつなげて まるまるアート

二
次

135
分

○参考作品を見て、トントンつなげて まるまるアートをつくるにはどんなものをつくるかを知る。

- ・「くぎでどんどん打っていくんだ」
- ・「どんな形につなげていこうかな」

○どんな作品をつくるか想像して、木切れを並べていく。

☆形や大きさをいろいろ見ながら、どんどん木切れを集めていく。

☆気に入った形がいくつかできる。

☆こだわりをもってひとつの形にしぼる

★上に積み重ねていくだけになってしまう。

★同じ形の木切れだけしか集めていない。

★城や箱など板を立ててくぎ打ちしづらい形を

◆くぎを使って木切れを「つなげて」いくには、打ちやすい形を探すことが大切だということに気づかせる。

◆「まるまる」は、つなげていく形のはじとはじがどこかでつながる形=丸(まる)の形にイメージできるように伝えていく。

◆いろいろな木切れをどんどん並べては崩しを繰り返し行い、自分のおもしろいと思う形を見つけるように声かけをする。

◆一つ一つ形が出来たら写真に撮って、後でもう一度つくりたい時に見られるようにしておく。

◆使いたい木切れがある程度決まってきたら、その木切れでいろんな形をつくって

つくっている。



○できた形を一度ばらばらにして、一つ一つに色をぬっていく。

☆ていねいに両面・側面をぬっている

☆ぬり方にこだわりを持ってぬっている。

★ぬることにあきてしまう

- ・「緑と黄色の組み合わせはどうか」
- ・「赤が好きだから、たくさん赤にぬろう」
- ・「10個あるから、半分青で半分黄色にしよう」

○色をぬったパーツを、くぎで打ってつなげて形にしていく。

- ・「前につくった形と同じ形にしよう」
- ・「前と同じ形にもどすのは意外と難しいな」
- ・「新しく違う形にしてみたくなったよ」

☆色や形をみながら新しい形を組み立てている。

☆形や向きを考えながらくぎを打っている。

☆いろいろな角度から見てくぎを打つ位置を考えている。

☆補助材を使って安定させてくぎを打っている。

☆写真を見ながら形を再現している。

★なんとなくつなげて形にしてしまう。

★上に積み重ねていくだけになっている。

★どこを打ったらいいかわからない。



いくように声をかける。

◆「つなげて」を意識させて、形が具体化されない自由なものをつくれるように投げかける。

◆木に色をぬってみる楽しさを感じながら、よりよい作品にしあげるための色ぬりだということを確認する。

◆色は2色までとし、水加減で色合いが違うことや組み合わせでイメージが変わることにも気づかせる。

◆色をぬる場合は、筆の他にはけなども使ってぬりやすい道具を使えるよう用意する。

◆どんどんつなげて打ちつけていくようにし、つくっていく過程で思いが変わって形が変わっていくことがあってもよいことにし、それを楽しんでいけるように助言していく。

◆くぎは合わせた板の裏から出ない長さ（約19mm）のものを使用し、長めのくぎも用意しておく。

◆打つところが難しい場合は、ボンドなどで仮止めする。

◆まるまるアートの「まるい形」を意識してつくってみよう声をかける。

◆段差が表れる箇所など、不安定な場所がどういうところか例をつかってわかるようにする。

【関】…活動の様子・つぶやき・発言

【発・技】…つぶやき・作品

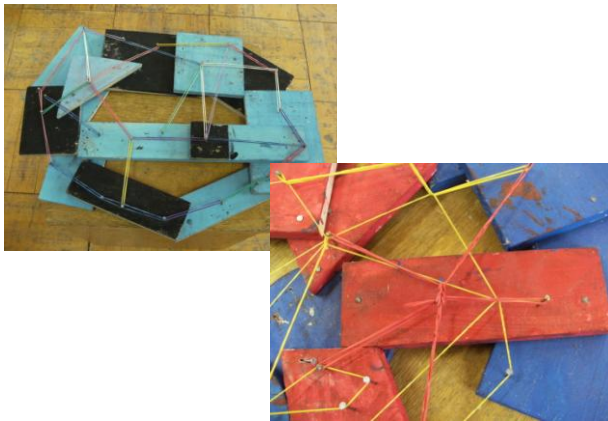
トントンつなげて まるまるアートの完成だ！

三
次
60
分

○今日の学習の参考作品を見て、感じたこと・わかったことを発表する。

- ・「私は一番目の形がすきです。ゴムの形がおもしろいです」
- ・「くぎが多いほうがおもしろいと思う」

○つなぎ合わせた木切れにくぎを打って、ゴムを張っていく。



◆参考作品は同じ形でくぎの打つ場所とゴムの張り方が違うものを用意し、感じの違いに気づかせるようにする。

◆くぎを1. 2本打ったらゴムをかける、を繰り返し、いろいろ試しながら進めていくように声をかける。

◆くぎを打つ場所や木切れの色とゴムの色の感じを見ながら、自分がよいと感じるところにどんどん加えていけるように声をかける。

【関】…活動の様子・つぶやき・発言

【発・技】…つぶやき・作品

友だちの作品をかんしょうしよう

四
次
20
分

○自分の作品を自分の好きなおところにおいて、友だちの作品をお互いに見合う。

○友だちの作品を見た感想を伝え合う。

- ・「〇〇さんの作品は形がおもしろいと思います」
- ・「くぎでうまくつながっていてすごいです。」
- ・「色の組み合わせが私も好きです。」



◆出来た作品をどのむきで見せたいか考えて、置く場所を決めるようにさせる。

◆ひもなどでぶらさげて飾るのもよいことを伝える。

◆作品のおもしろいところ、気づいたところなど、自分で感じたよいところを伝えていく。

【鑑】…発言・ワークシート